

題目 ソーシャルキャピタルと利他性・社会割引の関係の分析

氏名 田中雄太

指導教員 高橋泰城准教授

【問題】 ソーシャルキャピタルとは人々の協調行動や協力行動を活発にするネットワークや規範、信頼性といった社会組織の特徴である(Putnam, 1995)。ソーシャルキャピタルが高まると、社会的ジレンマの解決や経済発展、健康や幸福度の向上につながると言われている。本研究の目的は、ソーシャルキャピタルと利他性の関係を調べることである。【仮説】 (1) ソーシャルキャピタルと利他性に正の相関がある。(2) 社会割引において、社会的距離が遠い人に対しても社会的距離が近い人と同様に価値を分け与える度合い ( $q$ ) とソーシャルキャピタルの互酬性の規範、社会的ネットワークが相関する。(3) 囚人のジレンマ課題における互酬性 (PDR) がソーシャルキャピタル、社会割引と相関する。【方法】 実験は大学生 46 名を対象に行われた。本研究では社会割引を特定の関係での利他性 (SDA)、囚人のジレンマ課題を一般的利他性 (PDA) を測る指標として用いた。【結果】 (1) ソーシャルキャピタルの互酬性の規範が強い人ほど、特定他者への利他性が低く、なおかつネットワークがある人ほど一般他者に対する利他性が低い。(2)  $q$  と互酬性の規範、 $q$  と社会的ネットワークに相関は見られなかった。(3) PDR とソーシャルキャピタル、SDA は相関が見られなかった。【考察】 (1) 互酬性の規範が強い場合はむしろ、純粋な利他行動を行わず、互恵的な利他行動のみをすることが考えられる。また、社会的ネットワークと PDA に関して、追加的な分析を行った結果、親戚付き合いの人の数や頻度が多い人ほど一般的な利他行動を行わないということが分かった。(2) 考察 (1) と同様の理由で  $q$  と互酬性の規範、 $q$  と社会的ネットワークに相関が見られなかった。(3) ソーシャルキャピタル及び SDA は自分と関わりのある人に対してのみ影響を及ぼし、PDR と相関が見られなかったと考えられる。【結論】 ソーシャルキャピタルは一般他者への利他性や特定他者への利他性を高めない。むしろ、互酬性の規範やネットワークのスコアが高いと一般他者への利他性が低くなる。